

「ロシア極東港湾調査報告概要」

本年度の新規事業である「環日本海地域貿易環境整備事業」の予備調査として、ロシア極東地域の港湾・物流状況を調査するために極東ロシアを訪問した。

今回は、ロシア極東地域の港湾関係機関を訪問し、双方の貨物集約の可能性及びロシア極東地域の港と秋田港とのコンテナ定期航路開設の可能性について、意見交換・関連情報収集を行い、環日本海コンテナ定期航路開設を目指した基礎作りとするものであった。

1．極東地域の港湾

- (1) 極東ロシアの主な港は、東から、ポストーチヌイ港、ナホトカ港、ウラジオストク港、スラビアンカ港、ザルピノ港、ポシェット港の6港がある。
- (2) この6港の中で港湾規模、取扱貨物量が最大であるのは、ポストーチヌイ港であり、コンテナ航路、コンテナヤードの広大さ、シベリア鉄道への接続など利便性良い。次は、ウラジオストク港であるが、港の後背地が狭隘である。
- (3) ポストーチヌイ港からは、釜山港にコンテナ航路が開設されているほか、日本（新潟、富山、門司、横浜）に月一回コンテナ航路が開設されている。
- (4) ウラジオストク港からは、北米と釜山港にコンテナ航路が開設されている。
- (5) ザルピノ港は、小規模ながらも韓国との間にコンテナ航路及びフェリー航路を有している。
- (6) ナホトカ港は原材料の搬出入港、ポシェット港は規模が小さく、石炭の専用積出港である。

2．シベリア鉄道

- (1) シベリア鉄道は、近年、全線複線電化、コンピュータ管理され、スムーズな荷役作業が可能となった。
- (2) ポストーチヌイ港、ウラジオストク港と接続しており、港からの積み替えは非常にスムーズに行われている。
- (3) ここ数年、輸送料金の値上げが続いており、若干、取扱貨物量が減少傾向にある。

3．コンテナ航路開設の可能性

- (1) ロシア最大の船社であるFESCO(極東船舶公団)及びアライアンス SHIPPINGを訪問し、極東ロシア地域の海運状況について調査した。
- (2) ポストーチヌイ港、ウラジオストク港を利用し、欧州、モスクワ方面には、シベリア鉄道を利用し、中国三省には、現状ではウスリースクから黒龍江省に陸路で運搬するのが一般的である。
- (3) 極東ロシアから中国吉林省への物流ルートは、現状では、ザルピノ港からの陸路が考えられるものの、今後のインフラ整備が課題となっている。